

新幹線プレス

2021年4月13日 No.512

発行者 杉澤秀則

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

『令和3年度 新幹線鉄道事業本部 実行計画』について

経営協議会開催

新型コロナ禍の中、4月8日に経営協議会が予定通りに開催されました。新幹線地本は、会社からの説明を受けた後、地本としての考え方と、日々現場で発生している諸問題について、会社に対して改善を求めました。

今年度の実行計画は、内容的には昨年度と大差はありませんが、『厳しい経営環境の中』という表現・文言が新たに加えられ、強調されています。

しかし、私たちは労働組合として組合員の労働条件改善と生活向上を目指して言うべきことは言います。

新幹線地本からの質問の要旨は以下の通りです。

【実行計画について】

1. 業務改革の推進について、効率的な業務執行体制を目指すとして10年から15年かけて800億円程度のコスト削減や、ICTの活用なども言われているが、会社として具体的に考えている事柄について明らかにすること。
2. 新型コロナウイルスによって、輸送量は前年比32～33%まで大幅に落ち込んだが、今年度全体の輸送量をどのように予測をして、新幹線における営業収益をどのように見込んでいるのか明らかにすること。
3. 新型コロナウイルスが変異株に置き換わってきている。感染力が1.2倍から1.7倍、重症化率・死亡率も高いと言われている。マスクでは防げないとも言われており、従来の対策からの転換が必要と考えるが、会社の考えについて明らかにすること。
また、これに対する職場での対策、今後の運行計画、PCR検査の導入、ワクチン接種などについて、会社の考え方を明らかにすること。
4. 一時帰休について、今後どのように考えているのか。また、休業という勤務指定は、会社としてどういう休みとして認識しているのか明らかにすること。

【労働条件について】

1. 乗務員の出先地の労働外時間が6時間以内で、睡眠時間が十分に確保されていない行路で、シーツ交換を行うと睡眠不足により翌日の運転業務に支障が出る。シーツ交換は乗務員本人に行わせず、会社が責任をもって行うこと。

2. 運転士行路は労働外時間が6時間台（実質的には5時間睡眠取れば良い方である）で休養時間が十分に確保されていないと実感しているが、会社の認識について明らかにすること。
3. 東京の車両所における各種報告書の作成・整理が煩雑になっており、超勤も多く発生している。仕業検査車両所では、工具管理や報告書で準備および報告作業が複雑になっており、実際の調査・修繕作業より付帯作業の時間が多く取られている。作業内容を精査し、報告書を簡素化すること。
4. 現在、工具を使用する作業は全て2人作業としているが、煩雑な業務遂行となっている。以前のように一人で十分な簡易な作業は一人作業とすること。
5. 車椅子スペースが拡大の導入計画について詳細を明らかにすること。

【労使関係について】

1. 労働組合が申し入れた団体交渉に対して会社は応じなければならないと認識する。このことは年休に対する診断書強要を発端とする労働委員会の命令でも明らかである。団体交渉の申し入れに対しては団体交渉を開催すること。
2. 苦情処理申告に対しては速やかにすべて苦情処理会議を開催すること。
3. 組合は年休と欠勤は別なものであると認識している。会社の認識について明らかにすること。昭和63年発行の「就業規則の解釈と運用」に代わる新しい解説書があるというが、現場に置いていないのはなぜか。さらに、労働組合への配布を要求しているにも拘らずそれに応じないのは何故か。

以上

会社回答と協議内容については随時お伝えします。

私たちJR東海労新幹線地本は、職場の組合員・社員の声を大事にして、安全で働きやすい労働条件及び職場環境の改善に向けて、会社に対して遠慮なくもの申していきます！それが労働組合の存在価値であると認識しています！！

新幹線地本のブログを開設しました！

jrcushinkansen.sakura.ne.jp

携帯でQRコードを読めばみられます

